

【足立区地域自立支援協議会 精神医療部会】会議議事録

会 議 名	令和 8 年度 足立区地域自立支援協議会 第 1 回精神医療部会					
事 務 局	衛生部 足立保健所 中央本町地域・保健総合支援課					
開催年月日	令和 8 年 7 月 2 8 日（火）					
開催時間	午前 1 0 時 ～ 午前 1 1 時 3 0 分					
開催場所	足立保健所 2 階会議室					
委 員 出 席 者	部会長	森澤 美穂	委 員	樺沢 えり	委 員	橋本 孝子
	委 員	西村 健司	委 員	鈴木 こずえ	委 員	初鹿野 学
	委 員	片桐 愛子	委 員	吉村 あいこ	委 員	秦 英一郎
	委 員	澤木 和将	委 員	内田 聖子		
	委 員	長谷川 瞳	委 員	石黒 雅浩		
委 員 欠 席 者	委 員	小杉 信之	委 員	増田 和貴		
会 議 次 第	1 開会挨拶 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 足立区地域自立支援協議会の目的・機能 5 令和 8 年度 足立区地域自立支援協議会 精神医療部会 活動計画 6 令和 8 年度「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動計画 7 令和 8 年度「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況 8 各部会員からの情報提供等 9 事務連絡					
資 料	資料 1 令和 8 年度足立区地域自立支援協議会 精神医療部会 名簿 資料 2－1 足立区地域自立支援協議会の目的と機能 資料 2－2 令和 8 年度足立区地域自立支援協議会精神医療部会活動計画 令和 8 年度「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動計画 資料 3 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況					
そ の 他	司会：飯田 恵美子（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健係長） 説明：田中 恭子（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健担当係長）					

令和8年度第1回精神医療部会
足立保健所2階会議室

【事務局 飯田】

お時間となりましたので、足立区地域自立支援協議会精神医療部会を開始いたします。中央本町地域・保健総合支援課の精神保健係長の飯田と申します。よろしくお願いいたします。協議に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。まず1枚目、本日の次第、裏面に席次表がございます。続きまして資料1。精神医療部会の名簿です。資料の1。資料の2が両面となっており、資料3の表面となっております。以上、足りないものがございましたら、お知らせください。次に、この精神医療部会は発言等、会議内容及び発言者名など、後日、議事録を公開いたしますので、議事録作成のため録音をしております。後日、本日ご発言をいただいた委員の皆様には、議事録の内容確認をしていただきますので、あらかじめご了承ください。また、本日は傍聴人の方が2名いらっしゃいます。部会の進行の中で、個別事例を取り上げる場合は非公開といたします。その際は傍聴人の方にはご退出いただきますので、あらかじめご了承ください。事務連絡は以上です。それでは、令和8年度足立区地域自立支援協議会第1回、精神医療部会を開会いたします。初めに、開会の挨拶、中央本町地域保健総合支援課長の秦よりご挨拶いたします。

【秦委員】

皆さん、おはようございます。中央本町地域保健総合支援課の秦といいます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。昨日までは酷暑で本日は昨日より少し涼しくなって良かったかなと思っております。冷房を入れていますが、暑い寒い等がありましたらおっしゃってください。よ

ろしくお願いいたします。精神医療部会は、年2回の開催で事務局側の都合もあり申し訳ないのですが、年内に終わるような形にもなっており、1回、1回が貴重な会議となっております。また、会議内容が、下部組織の「にもワーキンググループ」の報告で、ワーキングでは、こういうことやってきますというところがメインになりがちな部分がありますが、他にも、精神医療についての情報提供等があれば、活発的に発言いただいて、そちらの話題についても進めていきたいと思えます。短い時間ですが、よろしくお願いいたします。

【事務局 飯田】

続きまして、次第2 委嘱状の交付ですが、本来ならば、足立区長より交付いたしますところ、大変恐縮ではございますが、協議時間を十分取らせていただくために、委嘱状をあらかじめ配付させていただいております。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。次に、次第3番、委員のご紹介に移ります。それでは、森澤部会長からお願いいたします。

【森澤部会長】

はい。皆さんおはようございます。精神医療部会の部会長を務めさせていただいております、足立区精神障がい者自立支援センターのセンター長と、就労継続支援B型事業所Z i P、就労移行支援事業所のW i Zの施設長をしております森澤です。よろしくお願いいたします。日々の業務で、精神の方と一緒に作業をやったり、皆さんの相談支援を受けたり、いろんな対応をさせていただいております。精神医療部会で、今年度も、1年間いろいろと情報共有できたり、いろんなことを進

められたらいいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【澤木委員】

大石記念病院で相談員をしております澤木と申します。よろしくお願いいたします。

今回参加させていただくのは初めてになります。これまで外に出る機会がなかなか無い状況でしたが、今年度はこちらに出席させていただいておりますので、より一層地域の連携ですとか、情報共有ができたらと思っております。よろしくお願いいたします。

【樺沢委員】

東京足立病院、医療福祉相談室の樺沢と申します。

私は外来で、病院、医療と地域の方をつなぐ役割を担っているのと、相談支援専門員として計画相談も担当しております。ぜひ患者様と関わる中で、やはり足立区での地域課題というのを日々、実感するところであります。課題をぜひ、こういった皆様と、協議する場のテーブルに乗せて、より良い患者様の支援というところで、努めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【鈴木委員】

綾瀬病院の相談室の精神保健福祉士の鈴木といいます。よろしくお願いいたします。

【吉村委員】

大内病院の地域連携室の相談員の吉村と申します。

【長谷川委員】

等潤病院で入退院支援をしております看護師の長谷川といいます。よろしくお願いいたします。

当院は精神科の診療がありませんが、精神疾患の患者様がお身体の調子を崩して入院される、救急搬送されるといったことも、よくある症例となっております。ここで地域の方々とそういった方々のサポート体制など、情報共有できたらいいなと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【内田委員】

NPO法人クララの内田です。よろしくお願いいたします。

クララでは計画相談と、グループホームの方に関わらせていただいております。今後皆様と連携を取りながらより良い支援ができたらいいなと考えております。よろしくお願いいたします。

【初鹿野委員】

おはようございます。中部第一福祉課の初鹿野と申します。よろしくお願いいたします。

【橋本委員】

おはようございます。基幹地域包括支援センター西部の橋本と申します。基幹西部は、主に虐待困難ケース対応を主にさせていただいております。やはり高齢者の精神疾患がある方等が非常に最近多くなってきておまして、今日お越しいただいている都立精神保健福祉センターの方にも、来月、講師としてお世話になります。やはり精神疾患の持つ高齢者の方々の対応というものに日々苦慮しながら、対応しておりますので、このような会議で、皆さんといろいろな情報を共有させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

【石黒委員】

東京都立精神保健福祉センター所長の石黒でございます。よろしくお願いいたします。

【片桐委員】

家族会のあしなみ会片桐と申します。皆さんになにかとお世話になっております。よろしくお願いいたします。

【西村委員】

おはようございますふれんどりに所属しているピアサポーターの西村と申します。先日、ふれんどりのプログラムで、作業所とデイケアはどんなところかというテーマで、皆さんと意見交換をして、非常に参考になったことがありました。どうかよろしくお願いいたします。

【事務局 飯田】

皆様ありがとうございました。本日小杉委員、増田委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。それでは次第の4番目から議事となります。ここからは森澤部会長に議事進行をお願いいたします。

【森澤部会長】

それでは進めさせていただきます。次第4番足立区地域自立支援協議会の目的と機能です。中央本町地域・保健総合支援課の田中係長説明をお願いいたします。

【事務局 田中】

精神保健担当の田中と申します。よろしくお願いいたします。4番の足立区地域自立支援協議会の目的と機能について、資料2-1をご覧ください。この精神医療部会は足立区地域自立支援協議会という大きい協議会の中の専門部会という位置付けになります。今一度新しい委員さんもいらっしゃいますので、

足立区地域自立支援協議会について説明させていただきます。まず、法的な位置付けとしましては、資料に記載の通り、地方公共団体は、障がい者等への支援体制の整備を図るため、関係機関、関係団体、障がい者、その家族並びに障がい者等の福祉、医療、教育、または雇用に関連する職務に従事する者、その他の関係者により構成される協議会を置くよう努めなければならない。また、協議会につきましては、関係機関が相互の連絡を図ることにより、地域の障がい者等への支援体制に関する情報及び支援体制に関する課題についての情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとするがございます。このような法的な位置付けがありまして、足立区地域自立支援協議会が設置されております。役割に関しましては、記載の通り、個別事例のあり方に関する調整や、地域における課題等の抽出、把握や共有、関係機関の連携強化。福祉計画等への助言などとなっておりますので、ご一読いただければ思っております。

次に、足立区自立支援協議会の構成です。精神医療部会の位置付けといたしましては、平成30年から本会議のもとに、6つの専門部会が設置されまして、その中の一つとなっております。専門部会で検討した内容を本会議に報告し、本会議より検討依頼された議題や課題について検討協議をしていく体制となっております。この後、ご報告いたします、にも包括ワーキンググループは、精神医療部会のもとに、実施部隊として位置付けております。地域自立支援協議会の説明につきましては以上になります。

【森澤部会長】

ありがとうございました。先日、自立支援協議会の本会もありまして、こちらの方では昨年度の精神医療部会の実施報告をさせていただきまして、また今年度の活動の案を報告させていただいて、今、こういった形で精神医療部会が開催されているという運びになっております。何かご不明なところがありました時には、田中係長にいろいろと聞いていただいて、皆様のご理解が深まることあるといいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。続きまして、次第5番に移らせていただきます。令和8年度足立区地域自立支援協議会精神医療部会活動計画となります。次第6番、令和8年度、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に関わるワーキンググループ活動計画、7番、同じくにも包括に係るワーキンググループの活動状況も関連していますので、一括で説明と報告をお願いしたいと思います。田中係長よろしく願いいたします。

【事務局 田中】

まず、今年度の精神医療部会活動計画をご説明いたします。

資料2-2をご覧ください。目的は、地域自立支援協議会の専門部会として、精神障がい者の支援に関する連携と調整等を図るという位置付けになっております。活動計画の開催回数につきましては、年度内2回の開催で、今年度は7月と12月に開催を予定しております。開催内容につきましては、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況に基づいた、重点課題に対する協議と情報共有を図ることです。また、ワーキンググループの活動状況以外にも、その他、精神障がい者の支援に関する課題があれば、その共有と抽出及びその他解決に向けた連携と調整を行っ

ていきたいと思っております。いずれにしても、精神医療部会の年2回だけでは、具体的な実情を把握して検討するには、回数が少ないというところもありまして、それらに対応する位置付けとしまして、ワーキンググループを立ち上げております。続きまして、次第の6番、ワーキンググループの目的と活動計画についてご説明いたします。資料2-2の裏面をご覧ください。ワーキンググループの目的としましては、先ほども少しお話をしましたけれども、医療機関及び相談機関などは連携して、足立区の精神障がい者支援に係る現状の確認と課題を整理し、足立区地域自立支援協議会。精神医療部会や報告などを行い、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に寄与するという目的で設定しております。今年度の活動としましては、ピアサポーターの人数拡大と、実践的な養成に向けた具体的な体制づくりを行うこととしました。これは、令和5年度、6年度にかけて行った長期入院者の調査結果を踏まえて、昨年度、退院促進に向けて、また、精神障がい者が安心して地域で生活ができるようにするにはどういった支援体制をどのように構築すればいいのかということを検討した中で、長期入院により、精神の病状だけでなく、身体的な病状等が現れるなどの課題もあったんですけれども。何より、病院から地域へ戻る際に、ご本人の退院への意向が低いという課題があると、あるということがわかったということになります。これらの結果を踏まえて、長期入院者に対しての動機付け支援と、退院後の環境整備としても、地域生活を支える支援者は必須であり、ピアサポーターの重要性を再認識したという経緯がございます。そのための人数拡大と養成プログラムの内容等、具体的な内容を協議決定し、実際の運用に向けた準備を整えていく予定です。これらの取り組み

を通じて、長期入院者の方々が安心して地域で暮らせる体制づくりを推進していきたいと考えております。次に、次第7、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に係るワーキンググループの活動状況です。資料3をご覧ください。まず、1番の参加団体です。昨年度と参加団体の構成はほぼ同じになっております。地域移行の事業者と東京都の地域移行体制整備支援事業者などの団体で構成しております。

協議を進める中で出てきた内容によっては、スポット的にこのメンバー以外の方にもご協力をいただいております。2番の活動状況です。今年度は、これまで計3回の会議を実施いたしました。まず第1回は5月21日に行いまして、昨年度の振り返りと今年度の活動方針について話し合い、特にピアサポーターの登録人数をどのように増やしていくかという点についての具体的な方策について話し合いました。続いて、第2回では、講座の周知方法や内容の具体化について協議をいたしました。主な意見としましては、養成講座の受講のハードルを下げるために、名称を養成講座から入門講座へ変更してはどうかですとか、受講者の習熟度に合わせて、入門編からステップアップ編、フォローアップ編と段階的に体系化してはどうかといった提案などがありました。また、活動内容につきましても、お話が得意な方には、リカバリーストーリーの発表。また、表に出るのが苦手な方に関しましては、資料作成などの裏方作業など、一人一人の強みや得意分野を生かせる役割分担を作っていこうという方向性で話し合っております。第3回におきましては、現在、実際にふれんどりいピアサポーターを担当しているスタッフに参加いただきまして、これまでのワーキングのメンバーで協議してきた内容が実現可能かどうか、具体的なすり

合わせを行っております。裏面に移りまして、今後の活動内容ですが、当事者のピアサポーターの皆様にも意見をいただきながら、2月の養成講座に向けて、具体的な周知方法や内容を形にしていきたいと考えております。来年2月の講座開催に向けて、事前にピアサポーターの活動や講座内容を知ってもらうための説明会の開催を検討しております。あわせて、支援者向けの講演会も実施する予定です。支援者の皆様にも、日頃からピアサポーター養成について意識していただき、適任となる方を積極的に推薦していただけるような働きかけを行っていききたいと考えております。さらに、講座を修了した後に、ピアサポーターの皆様がしっかりと活躍できるように、病棟へのアウトリーチや退院後の相談窓口など、地域の中での具体的な活動機会や連携の仕組みづくりを引き続き検討して参りたいと思います。報告は以上になります。

【森澤部会長】

ありがとうございます。もしよろしければ田中係長から現在のピアの方の活動状況などがわかりましたらご説明お願いします。皆さんその辺もわかりづらいかと思いますので。私の方で今、ふれんどりいでピアサポーターの養成講座をやっておりますが、足立区の福祉計画の目標人数には大幅に届いていないという認識で間違いないでしょうか。

現在、10人ぐらいが参加をしております。令和8年度は定例会だと5人ぐらいのベースかと思いますが現状の活動状況をお願いします。

【事務局 田中】

現在のふれんどりいさんのピアサポーターさんですが、登録者は10名で、定例会を毎月1回行っております。5名から7名程度の

参加率ということで伺っております。その他、ふれんどりのプログラムの司会役として、職員の方が入るプログラムと入らないプログラムがございます。職員が入るプログラムには、語ろう会というものと、女性だけでお話する女子トークというものもございます。また、職員が入らないプログラムでは、2ヶ月に1回開催している。「ピアルーリアン」という、塗り絵などの作業をしながら、皆さんのお話を傾聴するというプログラムがございます。そのような司会役もやっていらっしゃる。その他、足立保健所で開催している、精神保健福祉合同新人研修というものがございまして、これは区役所の新人の職員、福祉部とか保健センターの職員、そして、区内の事業所の新人の方々を含め、事業所と医療機関の新人職員を対象に、研修をしております。その中で、体験を発表していただいております。今年度も、3名の方に、ご自身の体験を発表していただきまして、研修生から、初めて聞いてとても良かったというような感想を多数いただいております。また、ピアサポーター養成講座については、2月に毎年開催しておりますけれども、そちらでも体験発表をしていらっしゃいます。その他、不定期ですが、情報ネットワーク連絡会という区内の連絡会が年に2回ございまして、そちらは、一団体のメンバーとして、ご参加いただいております。その他、ボランティア講座での体験発表や、病院のデイケアでの体験発表、他のピアサポーター普及推進連絡会への参加ですとか、ピアサポーター交流会など、様々、活動をしていらっしゃいます。

【森澤部会長】

ありがとうございます。今、田中係長おっしゃってくださった活動とともに、こちらの

にも包括の方で、長期入院者調査の結果を踏まえてということで、当事者目線の伴奏が長期入院者の方の動機づけにも必要ですし、退院後の生活支援にもやはり必要ではないかということで、今年度ピアサポーターの人数拡大という流れの中で、実践的な養成を行っていくという運びで、今の現状があります。私も司会をしました。こころの健康フェスティバルのしゃべり場を昨年度は復活して、ピアの方も一緒に司会をやってくださいました。ピアの方達のモチベーションも上がってきて活動の場も増えてくるので、ここでできるだけ人数拡大していこうと今話し合いをしているところになります。ピアの活動を西村さんが活動されていらっしゃるの、そちらの方も伺いたいと思います。

【西村委員】

ピアサポーターの人数についてですが、常時参加する人は5人ぐらいでして、5人ぐらいっていうことは、例えば、アウトリーチとしてどこかの病院に訪問するような場合、2ヶ所が多分限度じゃないかなと思います。以前行っていた病院への訪問やデイケアへの訪問。そういったことをするとき、やはり5人ぐらいスキルが高い人がいないと、なかなか難しいので、士気を高めるために、さっき言ったようにステップアップ、フォローアップというのがすごく大事なのではないかなと期待しています。新人職員研修でのスピーチや情報ネットワーク連絡会でのスピーチというのも、結構、それに関しては士気が高い方が結構いらっしゃる、希望者が多くあつという間に担当者が決まることが多いです。今やってるのは、ふれんどりのプログラムの司会が多いのですが、これが多分ですけど士気が上がらない原因じゃないかという、なかなか参加してくだらない方がいてメンバ

一が決まってしまうというのが現状で、やっぱり本来の病院、障がい者の方と顔合わせとお話をするっていう形。いろんな形あると思いますけれども、病院に訪問するなどが多くなるといいなと思います。以上です。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ふれんどりの内側の活動もいいけれど、ずっとそれだと、ピアの方たちの力もついてきて、何か少しマンネリ化してしまって、なかなかモチベーションが上がりづらくなってしまうというご報告がありました。外での活動が、皆さんの士気を高めるというところもあり、皆さんそういった活動をよりしていきたいというような思いが、今伺えたかなと思っております。もしよろしければ皆さんにマイクを回しますので、今田中係長からご報告があった、ピアサポーターに関して、病院での取り組みの状況とか、受け入れしたいと思っているとかありましたら、お伝えいただければと思います。こんな活動をして欲しいということがありましたら、今のご報告の感想でも構いませんので、ぜひ一言いただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

【澤木委員】

ご報告ありがとうございます。一応ピアサポーターに関しては、当院では、過去にデイケアにピアの方がいらっしゃったことはありましたが、残念ながら、当院では、現在デイケアはやっておりません。今はピアサポーターの養成はなされていない状況でして、今後当院としてどうしていこうかというのは、このような会で、考えていかなきゃなとは思いつつ、当院で育成まで手を出せていない状況ではあります。ただその中で、地域移行支

援の方で関わっていただいたくらふとさんが、導入の際にピアサポーターの方と一緒に来ていただいて、地域移行を利用される患者さんと面談してもらいました。そこで、退院されてから自信を持って楽しいことやってますよというお話をしていただくと、結構その方のモチベーションにも繋がってやる気になる。そういったところで、そういう方の方が定着率というかご退院されてからご自身でやっていく方が多く、良かったなというところはありましたので、地域移行支援ですとかも事業者の方はお時間かかる中で大変かと思いますが、そのような中で、関わっていただいたのは良かったです。当事者として、自信を持って、楽しく地域で生活されているお姿を見せていただいたことは、非常に良かったと思っておりますので、そういった活動をしていきますと、とても助かったという記憶はあります。当院としてはなかなか育成に取り組めていない状況です。

【樺沢委員】

東京足立病院の樺沢です。報告ありがとうございます。当院では、スタッフ向けに、ふれんどりいさんに来ていただいて、ピアサポーターの活動等についてお話をしていただく機会というのを、少しずつ今進めさせていただいていると聞いております。ですので、こちらもピアサポーターさんの活躍の場の提供というところとお力をお借りする機会というのが、今後は増えてくるのかなと思ってます。また、個人的に思うのは、やはりコロナ禍以降、病院も少し閉じてしまっていたところがありました。ただ医療の実際が大分大きく変わってはきているところもあるので、ピアさんの中でもベテランの方も増えていらっしゃるというところもあり、昔の病院と今の病院というところの、実際が少し変わってき

ているところもあると思っているので、そういった今の病院を知ってもらう機会を提供していかなければならないと思っております。また、長期入院の方に関してですが、現実的に、病院の方でかなり地域移行が進んできている中で、長期の方が遠方病院の方に固定されてしまうというの、正直出てきてるのかなあと思っています。ですので、長期入院の方の地域移行というところも、極力早く進めなければ、足立区外の病院で長期になってしまうというケースがちょっと増えてしまうのかなあと思っているので、この点に関しては、皆様のお力をお借りして、どんどん進めていきたいと思えます。

【鈴木委員】

綾瀬病院鈴木と申します。前回の会議も同じ話をしたと思うのですが、私としてはピアの方たちが実際に常態的に活動できるようになった際には、地域であり多くのサービスに繋がっていない方をサポートする、同じご病気を抱えた方として寄り添える活動をしていただきたい希望が強いです。綾瀬病院としては、過去に地域移行支援を利用された方、ピアサポーターの方が相談支援事業所の方と一緒に活動してくださって、その方がかなり優秀な方だったのすごく助けられたところがありました。少し残念なのは、退院したら終わりとなってしまうので、継続して、地域の生活がメインですから、地域の生活をずっと継続してサポートしていただける仕組みがあるといいなとは思いました。以上です。

【吉村委員】

大内病院吉村です。大内病院としては、地域移行に力を入れて行こうという取組みが少しずつ動きつつあります。実際に、ピアサポ

ーターの方と関わっていくこととか、そういったことを具体的に取り入れていくことはまだできていませんが、この前も大内病院として何ができるんだろうねという話も出ましたので、今日ここで伺った話を持ち帰りまして、大内病院としてどんな協力ができるのだろうかとか、ピアサポーターに来ていただけるような場を作ってくとか、もっと具体的に提案していけるといいなと思いました。

【森澤部会長】

ありがとうございます。多分ふれんどりいも以前大内病院には入って、OTの作業療法のところで入っていたみたいなので、またそういう機会があるといいのかなと思います。

【長谷川委員】

等潤病院の長谷川です。今いろんな医療機関の方々のお話聞きながら、正直等潤病院としては、聞き慣れない言葉になっているなあと思いました。そのピアサポーターという役割の方々、そもそもどんな活動をされていて、どんな方が立候補されていて、この入門講座だとかそういったところに、展開されるのかっていうところが、そもそも、一般の医療機関では認知されていないんじゃないかなというところに、ちょっと私たちもう少し精神医療に対しての、理解を深める必要があるのかなあと思っております。このピアサポーターの方は今登録が10名ぐらいということで先ほど伺いましたが、ピアサポーターの方ってどういった方々が手挙げしてくださるのかなあと思ひまして、質問なんです。

【森澤部会長】

こちらのピアサポーターの募集が12月頃から始まります。まず、チラシを関係機関に

お配りしまして、そちらを見て、やりたいなと思った方が、自分の関わる支援者の方に推薦書とコメントを書き添えて提出してやるという形です。今、募集方法は検討している最中です。どんな方がというところでは、デイケアに通われている方ですとか、B型の事業所で普段作業している方、またお勤めをされているような障がい者雇用で働かれている方もいらっしゃる。というところですよ。

その部分の趣旨についてや周知方法についても、今、ワーキンググループの方で話をしている、関係機関だけではなく、もう少し広げていかなくては人数の達成にもつながらないと話しております。昨年度なんかは受けた方が活動に繋がったかというところ、繋がっていないんですよ。登録にも繋がっていない人もいますので、その部分の工夫も必要で、ピアサポーターの養成講座を受けてくださって、その中で活動するかどうかを、積極的にできるようにしていかなきゃいけないのかなというところと、やはり、先ほど長谷川委員がおっしゃってくださったように、ピアサポーターという言葉が、なかなか浸透していないのかなという現状もあります。精神医療の中では皆さんご存じかもしれませんが、一般の方にはまだあまり知られていない現状があるんだなと感じております。

【西村委員】

例えばですね、午前中に、清掃の仕事をし、午後2時からピアサポーターの活動に入る方もいらっしゃいますし、1か月に、20日働いて、それ以外の10日の間にピアサポーターの活動をするっていう方もいらっしゃいます。もちろん、B型の作業所に通いながら、ピアサポーターの日だけちょっと抜け出して、活動をする場合もあります。もっとい

ろんな趣味の人というか、いろんな職種の人や、いろんなバックボーンを持った人が沢山いらした方がサービスの向上にも繋がるんじゃないかと思います。私の場合は、B型作業所に通っていて、そこの所長さんの推薦で、こういう活動があるけどどうかなということになりました。主にやるのは、精神障がい者の方々に接して、僕の日常の暮らしのことを話して、少しでも退院のモチベーションが上がってくればいいなということを目指して、紹介されたところがあります。僕が始めた10年ぐらい前はそういう入口だったことが多いかと思いますが、今はそういう活動をしておりませんので、なかなかモチベーションを保つのは難しいと思います。以上です。

【森澤部会長】

質問の答えになりましたでしょうか。

【長谷川委員】

ありがとうございました。おそらく、このピアサポーターを増やしていく、養成していくということに、とにかく課題が沢山あるんだなというのは、今お聞きして思いました。私たちができることは、まずはこのピアサポーターを知ってもらう、そういった言葉をまず知ってもらう。活躍の種類を知ってもらう、そういったことがまずはお力になれるところかなと思いましたので、私も自分の病院の方に、持って帰りまして、こういったお話があったよということをご報告させていただければと思います。ありがとうございました。

【内田委員】

はい。クララの内田です。よろしくお願いします。クララでは、特に研修を受けた方ではありませんが、エピソードとして、グルー

プホームに入居してくる方の中には何年も入院をして、それでようやくグループホームの方にこられる方が多くいらっしゃいます。そういった場合、当然、入院生活では、金銭管理も服薬管理も病院でしっかりやっていただいていた、食事は3食出たりします。お金の管理では、生活費の管理を病院ですということではなく、お小遣いの管理をしてきているという中での生活ですと、突然それが地域に出て、はい生活しましょうといったときに、とても大きな不安を抱きます。そういった場合に職員が沢山の言葉で大丈夫よって声かけをするよりも、元々グループホームに入っている入居者の先輩たちが、自分たちもできなかったよって、でも金銭管理ここで練習するとできるようになったよ、お買い物はこうやってすればいいよって、その一つ一つの声かけがすごくその方の背中を押してくださっていて、実際に当事者の方の声かけはこんなに大きなものなんだと日々実感しています。

また、グループホーム通過型なので3年間練習をして、外に出るときに、また保護的環境のところから外に行くということが皆さんにとってみるととても怖いです。ただ、誰々さんが言ったんだから自分もできるかなあって。で、誰々さんはまだちゃんとアパートで生活できてるのっていう質問があったりして。大丈夫だよやっているんだよと伝えると、自分もできるから頑張ってみようかなとまた1歩が踏み出せる。ですので、身近な先輩たちの背中を見て、かなり前に進むことができるんだというのは感じています。ですので、ピアサポーターさんの数がもっと増えていけばいいなと思いますが、なかなかハードルが高くて難しいということであれば、本当にそこでやっている仲間たちが、役割を少しずつ担っていただいて、それで前に進める

というのが、またもっと広がっていけばいいなと考えています。以上です。

【秦委員】

中央本町地域・保健総合支援課の秦です。事務局としても、まず実態調査をした上で、入院をしてもなるべく早期に退院するために、支援側が何がまず、できるかということと、着手がしやすいものは何かということと考え、ピアサポーターの活用をしていくことを検討することを続けています。高齢ということもあり病院側からどうしても退院が難しいと判断されている方が足立区の長期入院の方で大半を占めていたということは調査で分かったので、私たちとしては、退院の可能性のある方が早期にまた地域に戻れるように、下支えできる地域の力の1つとして、ピアサポーターの方を養成していこうという方向性で検討を進めており、実態調査から今年目になっています。ピアサポーターさんの方は、先ほどからも色々なお話もありましたけれども、まず人数がそもそも少ないこと、活動参加への報酬費がいただけていないこともありますので、そのようなところも何か、テコ入れできないかなというふうに考えています。やはり活躍する場の提供が必要と考えてはいますが、そうするとある程度の活動メニューがないと、厳しいですし、モチベーションというお話もありましたけれども、モチベーション向上ということも考えれば、例えば病院であったり学校であったり、そういった活躍できる場の開拓もしていかなければならないと。人数増加に加え、活躍できる場の創設という、両輪で動いていかなければいけない事業だなと思っています。今回、ふれんどりで開催しているピアサポーター講座の方を、トライアンドエラーではないですが、色々なご意見を聞きながら、試行版として、

まず今年度やらせていただいて、それで、こういったところまだ足りなかったということがあれば、改善して、来年に向けてまたやっていきたいと考えています。病院さんからのお話もありましたが、病院も色々と状況が変わってると思いますが、ピアサポーターの活用ということを、少し頭の片隅にも入れていただいて、何か参画できる機会の場の方を作っていただければと思いますし、福祉事務所の課長も来ていらっしゃるけれども、生活保護受給者の方で、ピアサポーター活動するに際しての交通費であったりとか、そういったこともちょっと何とかできないかなと考えているところは今後も相談していきたいと思っていますので、皆さんの忌憚のないご意見とかアイディアをいただければと思っています。よろしくお願いいたします。以上です。

【初鹿野委員】

中部第一福祉課の初鹿野です。少し個人的な話になってしまいますけど、私が40年前に入区したときに、やはり生活保護のケースワーカーでして、その頃を考えるとですね、その頃っていうのが、大分地方の茨城とか三多摩地区の病院に長期入院という精神疾患の患者さんが非常に多かった。なおかつ、東京都内の病院でも、精神疾患の患者を大部屋に集められているような環境で治療を受けているという報告を受けたりとか、今考えると、考えられないのですが。この40年というスパンが長いのか短いのかよくわかりませんが、かなり精神疾患を抱えた患者が、社会復帰における環境というのは整いつつあるのかなと実感として感じています。ピアサポーターの件ですけれども、先ほどクララさんの方から発言がありましたけれども、やはり実験ですね。同じ悩みを抱えて、それがどうい

う経過のもとに、頑張ってきたのかということ伝えることが、これから踏み出そうとしている患者さんにとっては、一番必要な話なのかなというふうに思うと、ピアサポーターの方を選定するときも、その人単独で、完結できればもちろんいいんでしょうけれども、そうではなくて、そういった集団の中でサポートしていくという考え方もありなのかなと先ほど話を聞いておりました。ちょっと感想で申し訳ないんですけど。そのぐらいです。はい。失礼します。

【橋本委員】

基幹地域包括支援センターの橋本です。地域包括支援センターはやはり地域を拠点にしてやっておりますので、どちらかというやはり地域で孤立しているような、精神疾患がある方の支援というものが主に重点的な対応になってきます。先ほど秦さんの方からもやはり、高齢化しているということのお話があったかと思いますが、やはりそれはこちらも包括支援センターでも非常に感じているところで、今回ピアサポーターは長期入院の方の支援というところでのお話でしたが、まだ人数が少ないというところでは、今はそれに絞らなければいけないんだろうと思うんですけども、やはり人数が増えてきた暁には私も先ほど鈴木さんも仰っておられましたが、やはり地域で、デイケアとかB型とかに繋がっておられる方は良いのですが、やはり孤立している方の支援というところに支援が届くと一番いいなと思っておりまして。やはり我々が行っても、何かこう、「包括何？」みたいな感じになってしまいますので、そういった意味でも同じ疾患抱えた方が寄り添っていただけるような体制がとれると、非常にありがたいなと感じています。ただそれは多分、何年後かの目標になってくるのかなと感じまし

た。また、うちの基幹地域包括支援センターは、バックが足立区社会福祉協議会で、地域づくりなども主な業務でして、社会福祉協議会でも、コミュニティソーシャルワーカーを配置して、地域の中で居場所づくりとか、非常に力を入れてやっているところなんです。が、コミュニティソーシャルワーカーが、東京足立病院さんがやってるSODAさんと連携をして、特別養護老人ホームを拠点にして、活躍の場というものを設定したりとかしているところもございますので、先ほどピアサポーターさんの活躍の場というお話もあったかと思いますが、そういった意味で社会福祉協議会として、ピアサポーターさんと連携をとりながら、活躍の場を確保するようなお手伝いなども、していけるのではないかと感じたのがまず1つと、精神疾患の方が高齢化していますので、やはり包括支援センターの職員の対応も、どのように接していけばいいのかとか、そういうことをやはりピアサポーターの方にお話いただく機会なども、基幹地域包括支援センターとして設けるとか、というようなことも考えていけそうな気がしております。定期的に、市包括職員向けの研修なども、基幹で設定して開催しておりますので、そういった形で、精神疾患を持つ方の理解を深めながら、みんなで盛り上げていくこともできるというかなと感じました。

【石黒委員】

精神保健福祉センターの石黒です。ピアサポーターのお話で、今年度は特にこちらでも力を入れてやっていくとお聞きし、すごく良い取り組みだなと思っております。

今、ピアサポーターについては様々な区で様々な取り組みが行われており、私などの最初のイメージですと、やはり一番よく出てくるのは地域移行に関してです。長期入院の方

の病院を訪問し、色々な動機付けであるとか、地域での生活の不安を取り除くための1つとしてやってきたことですが、地域によってピアサポーターの活動の仕方や活躍の場についても本当に様々で、色々と工夫されたり、地域の実情に合わせて色々なことをやっていくということがあり、すごく興味深いです。

また、当センターでピアサポーターの取り組みとしてやっていることとしては、1つは東京都の地域体制整備の取り組みの中で、当センターの職員もワーキンググループに参加しております。もう1つ、当センターの他の部門でアウトリーチの部門というものがございまして、こちらは通常のサービスになかなかつながらない方や、地域生活が行き詰まっている方などに対し、区の保健師さんたちと一緒にアウトリーチとして当センターのスタッフも生活支援を行ったり、受診勧奨をしたり、色々なサービスにつなげたりしております。その中で事業として、ピアスタッフを交えた事例検討会を少し前から年に数回行っております。区のピアスタッフの方と協力しながら、割とそういったことに慣れているピアスタッフの方に来ていただいてやっているのですが、その中で支援者がすごく行き詰まっている時に、ピアスタッフの方にも一緒に事例検討に入ってもらおう試みを私もセンターに来てから実際に体験し、すごく視点が違うと感じました。

例えば、なかなか関係が取りづらい方が地域で生活してうまくいかないという場合でも、「こんな時は本当はどういう接し方が良かったのかな」「この時はどういう気持ちだったのかな」ということを、例えばピアの方が同じような立場だった時の経験として話していただきます。現在は治療などもきちんとしていてすごく落ち着いている方でも、「引きこもっていた当時は誰とも会いたくなかつ

た」「こういう声かけの仕方はかえってもの凄くいらついた」といった具体的なことを言っていたけると、「そういうこともあるのだね」ということで、すごく支援者の理解が深まります。ある意味、人材育成的な側面もあり、とても効果を感じました。

ピアサポーターの方のお話をお聞きして色々期待されることとしては、やはり様々な方向性がありますが、1つは当事者の先輩として、地域生活の中での不安を取り除いたり、一緒にその方が地域生活を行っていくための助けになるということで、これは地域移行の話も同様です。そしてもう1つは、支援者や専門職に対しても教育的といいますか、違った視点での支援の方向性を考えるきっかけになるということですごく役立つということを、すごく身をもって体験しております。

なお、当センターのピアスタッフとの事例検討会でどうしてそういったアイデアが出てきたかと言いますと、専門的な話になりますが、アウトリーチ支援を行っていく中で、アメリカなどでよく行われているACTという手法がございます。ACTの教科書などを読んでいきますと、そのACTのスタッフの中にピアスタッフを入れることが必須であるということや、あるいはスタッフの中に就労支援のスタッフが必ずいること、依存症の専門スタッフもいることなど、そういった枠組みの決まりのようなものがあり、その中にもうすでにピアスタッフが含まれているということがございます。

これについて「どうしてなのだろうね」と話し合い、日本では実際に一緒にアウトリーチに行くというのはやはり少し難しいのではないかという話になりました。しかし、事例検討という場であれば少しそういったことがきっかけで活用できるのではないかということでやり始めた経緯があり、すごく効果を感じ

じていて、今も継続して年に何回か行っております。

少し話がまとまらなくなりましたが、ピアスタッフの方の活躍の場というのも色々あり、またその存在にどういう意味があるかということで、当事者の側面と支援者に対して、あるいはもっと広い意味で、ピアスタッフの方がいることで地域共生社会といったことにゆくゆくつながっていくのだろうと思っております。そういった視点で色々と考えていくと良いのではないかと思います。

またもう1つ、やはりその地域ごとの実情などがございますので、ぜひこの足立区でどのような形でピアサポーターやピアスタッフの方が活動していくことがよりスムーズになっていくかということを、一緒に考えていく必要があるなと思っております。また色々少しでも力になればと思いますので、よろしく願いいたします。

【片桐委員】

ACTやアウトリーチなど色々難しい言葉が出てきて、ちょっと混乱してしまったのですが、家族会などでも少しお願いしてピアサポーターさんの講演を受けたのですが、やはりそこに職員さんが一人つかれると良いかなと思いました。

家族会ではそのピアの方のお話を聞いて、すごくピアさんのお話に自信や勇気をもたらしたり、まだ外に出られない自分の子供たちがピアさんのようになれたらいいなという希望や勇気をもらいました。

けれども、大勢の中でお話されるので、ピアさんもすごく負担があるのではないかなと思いました。ですから、退院支援などのそういった個人個人の話はすごく良いと思いますが、大勢の中で話すのはちょっと大変かなというような気がいたしました。違うかもしれ

ませんが、当事者は何か色々と話したいことがあっても、なかなか自分の気持ちを上手に伝えられない人が多いと思いますので、そういう時に家族会は何かそういった言えないことを手助けするような、相手に伝える手助けができるようなお手伝いができれば良いなというふうに思っております。以上です。

【西村委員】

当事者の方の声かけが、障がい者にとって力になるということは、非常に、納得させられるというか、そうありがたいと思います。また、ピアサポーターの人数が問題と考えております。活動する場と数の確保。この両輪で、両方とも上がっていけば、ピアサポーターのレベルというか、質が上がっていくこともあるだろうし、それによって活動する場も多くなるんじゃないかなと思います。人数の確保と活動する場の両輪を提供できるような仕組みがあればいいなと思います。また、孤立する方に対する支援について、孤立している人を、例えば多人数の場の前に持ってくるっていうのはすごく、緊張もするし危ないなと思います。ですから、ピアサポーターが、例えば訪問看護師だとか、計画相談の方とか、ないしはB型とかの作業所に通っている方とかから、お声がけを受けてピアサポーターが接するというようなやり方もあるんじゃないかなと思いました。また、専門家の活動とピアサポーターは少し違うというような意見も少し出ましたが、そのようにありたいと思います。当事者でないと言えないような意見や、多少わがままに聞こえる発言かもしれませんが、もっと発言していけばいいなと思いました。以上です。ありがとうございます。

【森澤部会長】

皆さんありがとうございました。色々皆さんの現在の活動の中での思いがあり、このように、ピアサポーターの活躍の場を広げていけるかなというところを、ご助言いただけたかなと思っております。また、やはり一緒に活動する職員の方も、しっかりと育成していくこともとても大切でというところも感じる皆さんのご意見だったかなと思っております。また、今一度、先ほどのにもワーキンググループの活動状況の中で、人材育成の部分で、今回は養成講座を入門編にしていこうかななんていうことも、話が出てますが、何かその辺のご意見等は大丈夫でしょうか。ご報告の中でもう少しこんなふうにすればいいと感じたというところがありましたら、最後にご意見をいただきたく思いますが、いかがでしょうか。

【鈴木委員】

綾瀬病院の鈴木です。年に1回開催というのが、タイミングを逸すると受けられないので、2回とかにならないのかなというのが疑問点としてあるのと、区の目標の人数があるというお話が出たと思いますが、何人ぐらい目標にされているのか、また応募者の方は全員参加できるのか、講座に関して振り分けられたり人数の制限があるのかないのか教えてください。

【森澤部会長】

年1回というのは今のところ、ふれんどりい自体が他の事業も抱えている事情で1回なのですが、やはりワーキンググループでも、その1回を逸するとまた来年まで待たなくちゃいけないということもあるよねという課題は出ているので、今後の検討事項と合致しているかなと思います。

次に福祉計画の人数というのは田中係長お願いできますか。

【事務局 田中】

はい。福祉計画では、令和8年度の時点で27名と定めております。これが、令和6年度から8年度までの第三期福祉計画で挙げたものですが、コロナ禍で、活動が下火になってしまったことと、登録はしているけれど実際の活動には出られていなかった方を整理したところ、10名と少なくなったとふれんどりいさんから聞いております。福祉計画では、年に2、3人ずつ増やすという換算で、令和8年度の目標値は27名としておりました。この辺もまた、修正をかけながら、そして実際にこの計画に合った人数にするようにというところで動いているところです。

【森澤部会長】

昨年度は先ほどお伝えしました通り、受けた方皆さんがピアサポーターとして登録されなかったということだったんです。ですのでそこの中でもしっかりと、1回目の定例会に出ただけのような仕組みを作って、実際の活動を目にしていただいて、それで決めていただくぐらいなところができるといいのかなと思い、ワーキングで検討しております。

また、実際の応募された方に関しては、今のところそこまで定員数にも達していないので、ふり落とすことはせず、皆さん受講していただいておりますが、やはり実際、受ける過程の中で、講座を受けるのはしんどい方もいらっしゃるって、申し込みされた方が、全てピアサポーター養成講座の修了者にならない場合もあるということが、ピアサポーターの養成講座担当の職員から、先日ワーキングでも報告を受けたところになっております。ありがとうございます。他に何かございますか。

今回の精神医療部会が12月で、実は12月はまだ募集開始の頃なので、もしかかこんなことやれたらとか、何かご意見がありましたらいただけるとありがたいです。

【秦委員】

中央本町地域・保健総合支援課の秦です。応募される人数をできる限り増やしたいということで、事業所等、色々なところに行って事前にこういう内容ですと、当事者の方だけではなくて、関係する方々にもまず説明会を行おうと思っているところです。ただ、作業所とか、病院さんとかクリニックさんとかと、あまり関わりがない方々もいらっしゃると思っています。

保健センターの方でも、多くの精神疾患の方々と面談を受けたり、相談を受けたりしていると思いますので、そちらの方からも、掘り起こしの検討をしていただきたいですし、意識を持ってもらいたいと思います。オブザーバーのどなたか1人でもいいので、今の現状とか本日の話を聞いた上で、どのような取り組みを、保健師として、やっていきたいというのがあれば教えていただきたいと思います。

【森澤部会長】

沢田保健師さんいかがでしょうか。

【オブザーバー 沢田】

5センターで意見をまとめさせていただきました。改めまして、東部保健センターの保健師の沢田と申します。日々、皆様方にお世話になっております。ありがとうございます。

地域では保健センターが5カ所ございまして、それぞれ担当地域の住民さんのご相談に回らせていただいたりですとか、関係機関の

方からご相談いただいたりですとか、そういった形で、業務させていただいてます。私も日々の中で、在宅ですとか、施設だったりとか色々な形で地域で生活をしている方も、ご相談ないしは、サービスの申請とか、定期的にお目にかかる方もそれぞれいらっしゃるかなと思います。お恥ずかしいことに、なかなか、日々の業務に追われてしまって、現状、ピアサポーターの養成講座があるから、ぜひあなたどうですかという声掛けは、できてなかった。というよりは、「今、僕、ちょっとピアやってるんだよね」とか、「ちょっと興味があるんだよね」という方には当然勧めることがあったけれど、自分が見つけ出そうっていう視点で、業務に当たったかという、なかなかそこまで至れていない。

私自身もちょっと足りないところもあったでしょうし、保健師も若い職員が増えているので、そうした職員に、思いが伝わっているかという、ちょっと難しいところもあるかもしれないので、もし説明会等をやっていただけときには、そうした場に保健センターもうかがわせていただいて、お話を実際に伺って、区の方針としては、ピアさんにもっと活動してもらってよりよい地域にっていうのがあるから、我々も、一緒に、皆さんと作り上げていきたいなというところで、思っております。それぞれの保健センターでいろんな活動もしてますから、その中でも、独自にやっていると出てくるといいなと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。秦委員いかがでしょうか。

【秦委員】

ありがとうございました。各保健センターの方でも少し意識づけをしていただければ良いかなというところで質問させていただきました。極論かもしれませんが、逆に保健師

さんへの相談が終結し、日々安定して生活されてる方というのも、ピアサポーターの候補者になると思いますので、定期的な報告とか状況確認の時にしっかり地域で安定して生活されていると思われる方に対しては、アプローチしていただけると、掘り起こしという部分はある程度担保されるのかと個人的には思いました。よろしくお願いいたします。

【樺沢委員】

すいません。ご質問になるんですけども、ワーキンググループの方には、実際にピアさんも、この検討の場には参加されてらっしゃるのでしょうか。

【事務局 田中】

現在はまだ、ピアさんのご意見はいただいていないです。ただ、後半のところでは、ふれんどりいのピアさんの活動の場にお邪魔させていただいて、こちらの検討内容をお伝えして、ピアさんのご意見をいただきながら、進めていきたいと思っております。

【森澤部会長】

前回7月のワーキンググループには、ふれんどりいのピアサポーター養成講座を担当する職員も参加して結構活発に意見交換ができたので、やはりワーキングで話すだけじゃなくて、現場をやっている方たちの意見をしっかりと聞きながら、取り込んでいけたらいいのかなと思っております。他何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

例年1月末辺りが、ピアサポーターの養成講座の締め切りになりますので、次回12月の精神医療部会で配布したりとか、配布先のご意見をいただけたらすると良いのかなと思いますので、皆さんよろしくお願いいたします。

続きまして最後に、地域の精神保健の関係での情報共有に関してですが、何か地域課題としてご意見がある方ですとか、今こんなこと困ってますとか、こんな事例があるけど対応がとか、何かご意見がある方いらっしゃいましたら、お話をいただきたく思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい。それでは、本日は皆さんから有意義なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。議事はこれにて終了させていただきます。

最後に本日の部会の検討内容については、自立支援協議会本会へ報告することとなっております。報告書の取りまとめについては、私と事務局の方で進めさせていただきたいと思いますので、ご了承ください。

それでは事務局へお返しいたします。皆さんありがとうございました。

【事務局 飯田】

森澤部会長ありがとうございました。最後に事務局よりご連絡をいたします。足立区地域自立支援協議会本会の事務局である、障がい援護課よりご連絡です。本日の謝礼の請求書類を本日提出されなかった場合は、後日障がい援護課まで請求書をご提出いただきますようお願いいたします。

それでは、次回は12月22日火曜日の午後3時からを予定しております。皆様、お忙しい中ですがご出席いただきますようお願い申し上げます。なお、本日の議事録について案ができ上がりましたら、皆様に送付いたしますので、内容のご確認をお願いいたします。私からは以上となります。最後に皆様から連絡事項等ございますでしょうか。

【森澤部会長】

9月26日の土曜日に、ふれんどりいまつりが、足立精神障がい者自立支援センターの方で開催されます。11時からの開催になりまして、関係機関にはポスター等ご案内をお配りいたします。もし、その他ご関心のあるところがありましたら、ご連絡いただければ、すぐに送るかお持ちするかしますので、よろしくお願いします。

またそちらでは、ピアサポーターの方たちが、今までは他障がいの方の自主製品を販売していたんですが、今回はピアサポーターとして、違った企画をやる予定です。このピアサポーター養成講座のことも含め、機運が高まっていますので、そのような形で取り組もうという声が出ております。ぜひピアサポーターの活躍の姿も、ご覧になっていただければと思いますので、9月26日土曜日、美味しいカレーや催し物、各地域の精神の自主製品の販売や、ゲーム等ございますので、ぜひ皆さん、お忙しいとは思いますが、足を運んでいただければと思います。宣伝になって申し訳ありません。

【事務局 飯田】

ありがとうございます。それでは以上をもちまして、足立区地域自立支援協議会第1回、精神医療部会を終了いたします。まだまだ暑い日が続きますが、皆様、くれぐれもご自愛ください。

本日はご参加いただきましてありがとうございました。